

# 寅さん歩 その19

## バーチャルウォークで

### 聖火を新国立競技場へ-11



平野 武宏

FWAホームページの「YR・四季の道」に八柳修之さんの「バーチャルウォーク（国内版）沖縄から新国立競技場まで東京オリンピック2020の聖火コース（仮想）1685kmを2020年7月までに歩いてみませんか」が掲載されました。

かつては平野寅次郎の名で映画の寅さんのように全国のウォーキング大会を歩き、世界最大のウォーキング大会 オランダ国際フォーデーズマーチ（4日間で120km）を完歩しましたが、2018年1月に坐骨神経痛を発症し、足の痛みで自由に歩けなくなりました。治療やリハビリを重ね、現在は8～10km程度の散歩まで可能に回復しましたが、歩けない時は例会にも参加出来ず、悶々としていました。こんな時の光明がこのバーチャルウォークの提案でした。バーチャルウォークはリハビリの散歩の距離を累計しバーチャルコースのゴールに向かう、すぐろくのようなもので、「ゴールするまでは健康でいなければ」との目標を持つ、前向きな気持ちにさせる取り組みです。先の長いゴールまで歩けるかの不安もありますが、その時は**駕籠に乗って**（ウォーキングの隠語で交通機関を利用）聖火を新国立競技場へ届けようと気楽に考えました。歩く地域について学びながら思いを巡らすのも楽しいですよ。寅次郎は歩きながら、昔、ウォーキングで訪れて通過した県の思い出や、映画「男はつらいよ」で寅さんが通過した県でマドンナと、どんな恋をしていたのかをお話します。

2018年（平成30年）10月1日沖縄県辺戸岬をスタートした聖火は沖縄県那覇市から鹿児島県、宮崎県、大分県、福岡県、山口県、広島県、岡山県を経て、兵庫県に入り、2019年（令和元年）6月14日現在、スタートから1000km地点（全行程の59.3%）に到着しました。

〔兵庫県姫路市～西宮市〕 1001km～1100km



写真上左は**姫路城**です。1618年(元和4年)に現在の全容が整い水面から飛び立つ白鷺に例えられ別名「白鷺城」と呼ばれ、1998年日本で初めての世界文化遺産に登録された国宝です。

写真上右は**阪神甲子園球場(通称：甲子園球場・甲子園)**です。

1924年(大正13年 干支は甲子)に竣工の現存する日本最古の野球場で阪神タイガースの本拠地、春と夏には全国から予選を勝ち抜いた高校球児の夢の舞台で汗と涙の熱戦が繰り広げられます。

球場に絡まる「つた」は外国っぽく見せるために植えたのだとNHKのチコちゃんに教わりました。

今後は山陽道(西国街道)現在の姫路市、加古川市、明石市、西宮市を歩きます。

**寅次郎、兵庫県にはウォーキング大会で3回訪れています。**

2000年(平成12年)11月「第11回加古川ツーターマーチ」で加古川市制50周年記念事業ウォーキングフェスティバル」として多くの市民が参加していました。兵庫県の中央部に源を發し、瀬戸内海に注ぐ清流「加古川」(写真右)と、万葉の昔から詠われた印南野(いなみ)台地の豊かな自然と文化が調和した晩秋の播磨路を満喫しました。



市を挙げての開催で刺し子姿の消防団員たちの交通整理や、各チェックポイントでのご婦人たちのサービスがとてもよかったです。

大会第1日目は「水と自然を歩く」。水鳥が遊ぶ加古川沿いの河川敷緑地を歩き、播磨地区特有の多くの「溜池」を見ながら権現ダムまで上り、紅葉を楽しみました。

午後は升田町の案山子たちの歓迎を受け、加古川大橋を渡りゴール。市内では一番街のお汁粉サービスなど市を挙げての歓迎ぶりに感激しました。

大会第2日目は「歴史と文化を歩く」、歓迎のもちをつく音のする氷丘公民館を経て海に向かい、黒松の群生する浜の宮公園で味噌汁のサービス。住吉神社の天然記念物の手枕の松、尾上神社の謡曲「高砂」に詠われた尾上の松、聖徳太子ゆかりの播磨の法隆寺「鶴林寺」等歴史と文化の香りの中を歩きました。安価のJR寝台「らくらくシート」が取れず、個室寝台や加古川名物「カツめし」(写真右)は初体験でした。



この大会で日本スーパーマスター賞(日本マーチングリーグ全14大会を完歩)を受賞しました。

2 回目は 2002 年 (平成 14 年) 11 月の第 13 回加古川ツーデーマーチ」に参加、今度は加古川市の 40km コースを歩き、弥生時代の住居遺跡「大中遺跡」を見学しました。この大会でスタートを待つ間にお会いし、「この大会の後、がんの手術をします。又歩きますので、お会いしましょう」と笑顔で話していた歩友の訃報を翌年聞くとという悲しい思い出のある大会でもありました。

3 回目は 2010 年 (平成 22 年) 9 月の「第 2 回みなと町 神戸ツーデーマーチ」に参加、神戸を歩きました。藤沢駅を始発電車を出発し、小田原駅経由の新幹線で新神戸駅に 8 時 30 分到着。阪神・淡路大震災のメモリアルパーク内のメリケンパークから 9 時スタートの 20km コースに間に合いました。

元町、信長が中国との貿易で築いた花隈城跡の花隈公園、北野公房、異人館や風見鶏の館へと上り、更に布引の滝まで大汗をかいて上りました。那智の滝、華厳の滝と並びわが国の三大神滝の布引の滝は約 200m の間に 4 つの滝があり、特に雌滝・雄滝の景観は心を癒してくれました。昔から貴族や歌人がよく訪れたそうで、滝を詠った万葉の歌人の碑が立ち並びます。この山道の上りはさぞ大変だったろうと感心した寅次郎でした。ここは「六甲森林の道」として美しい日本の歩きたくなる道 500 選にも選ばれています。山を下りると新幹線新神戸駅でした。灘方面に向かい、数年前のゲリラ豪雨で死者を出した都賀川遊歩道を歩く。災害の教訓から遊歩道の壁には、「現在地」から上に上がる左右の階段までの距離が表示されていました。神戸港に出ると阪神・淡路大震災後に復旧・整備されたウォーターフロントです。

仮設テントが並んだ東遊園地には史跡と震災のモニュメントが入り混じってありました。

勝海舟や坂本龍馬が過ごした神戸海軍操練所 (写真右) も訪れました。

ゴールのメリケンパークには神戸海援隊モニュメントやコロンブスが世界を航海したサンタ・マリア号の復元帆船が展示されていて、さすが国際貿易港神戸でした。

大会二日目は武庫離宮と呼ばれた皇室の別荘跡の須磨離宮公園から源平の合戦で打ち取られた平敦盛の首塚のある須磨寺をお参りしました。境内で「異国の丘」のメロディーが流れているので振り向くと、シベリア満蒙戦没者慰霊碑があり、脇のボタンを押すと歌が流れる仕組みでした。



須磨の海岸から長田区に入ると被災の皆さんを勇気づける「鉄人 28 号」(写真右) が立っています。新川運河近くは清盛塚や枇杷塚がある平清盛の街。地元では昔から清盛公を兵庫の大恩人として祀っているそうです。ハーバーランドで踊る若者たちの「神戸よさこい」に元気をもらいゴール。阪神・淡路大震災からすっかり復興を遂げた元気な神戸の姿を確認できまし、大好きな坂本龍馬ばかりでなく、お彼岸の時期にご先祖様(平清盛公)にお会いすることが出来た大変有意義な旅だったと大満足の寅次郎でした。



明石には寅次郎が大好きな駅弁があります。1998 年(平成 10 年)の明石海峡大橋開通記念として JR 西明石駅で売り出された「ひっぱりだこ飯」(1080 円)です。写真下左は容器を上から、真ん中は容器の中身、右は空き容器の活用を撮りました。



映画の寅さんも兵庫県は 2 回訪れています。

1976 年(昭和 51 年) 7 月公開の第 17 作「男はつらいよ 寅次郎夕焼け小焼け」で龍野(現: たつの市)(写真右)にきています。

柴又へ戻るが甥の満男が小学校入学で先生から「寅さんの甥」と笑われたと聞きヤケ酒を飲み、飲み屋で無銭飲食の老人を助け、とらやに連れてきます。老人は日本画の大家でお礼にと描いたスケッチが 7 万円で売れます。

タコ社長と喧嘩してまた旅に出た寅さん、旅先の龍野で画伯と再会、画伯の友人として豪遊、芸者のぼたん(大地喜和子)と出会います。お金をだまし取られたぼたんが上京しとらやへ。寅さん人肌脱ぎますが、うまくいかず、画伯に「ぼたんのために絵を描いて」と頼みますが断られタンカを切る一本気の寅さんでした。



その後また龍野を訪れ、画伯からぼたんが届いた絵を見て、東京に向かって拍手を打ち、画伯に謝る寅さんの姿がいじらしいです。寅さんとぼたんとのからみや画伯(宇野重吉)と昔の恋人(岡田嘉子)の会話は大変味があります。

1995年(平成7年)12月公開の第48作「男はつらいよ 寅次郎 紅の花」で阪神・淡路大震災後の神戸に来ています。大震災の直前に神戸にいるとの連絡があってから音信不通となり、新聞の尋ね人欄に出した妹さくら達ですが大震災の特集TVにボランティア活動の寅さんが映し出されて一安心。さくらの夫 博は「兄さんのように既成の秩序、もしくは価値観とは関係の無い、言ってみればめちゃくちゃな人がだよ、ああ言う非常事態には意外な力を発揮するんだ」と寅さんを評しています。

劇中で復興途上の被災地神戸に戻り「皆様、本当にご苦労様でした」という言葉は俳優 渥美清の最期の台詞となりました。

スタートから1100Km地点に到着したら、次は大阪から東海道人入り、京都三条大橋から東海道五十三次の水口宿(現在の滋賀県甲賀市)までのコースを紹介します。

途中経過は「寅さん歩」の中でお知らせします。

次回は 東京にこんなところ-22 です。

平野 寅次郎 拝